

第 1 章 調査の背景と目的

第1章 調査の背景と目的

1-1 調査の背景と目的

独立行政法人国際協力機構（以下 JICA と呼ぶ）では、近年、アフリカにおける開発調査の効果的な活用方法を探るため、様々な試みを行っている。実証調査を伴う農村開発調査はその1つの形態で、開発調査期間にパイロット的に実証事業（プロジェクト）を実施し、その成果を踏まえて開発計画を策定するものである。

開発計画策定プロセスに住民参加型計画手法を導入し、開発調査を計画策定、実証調査の2段階で実施する試みが行われている。アフリカではこのスキームを活用した参加型農村開発が1999年から開始され、これまでにケニア、タンザニア、マリ、エチオピア、モーリタニア、スワジランド、モザンビーク、南アフリカ等で実施されている。

JICA プロジェクト研究「アフリカ農村開発手法の作成」調査では、

- 対象となる「実証調査を伴う開発調査」から教訓を得ること
- 実施された「実証事業」に対する適切なフォローアップ方法について検討すること

を目的に、これまでに2回、「実証調査を伴う開発調査」のフォローアップ調査を行ってきた。対象となった調査は下記の通りである。

- 「ケニア共和国バリンゴ県半乾燥地域農村開発計画」（2001年度実施）
- 「タンザニア国コースト州貧困農家小規模園芸開発計画調査」（2002年度実施）

本年度は、2000年3月～2003年6月に実施された「マリ国セグー地方南部砂漠化防止計画調査」（以下「マリ開発調査」と呼ぶ）について、両国関係者からの聞き取りや現地踏査を通じて実施の過程と成果を調査することにより、今後農村開発協力をより効果的に実施するための教訓を整理する。尚、すでにマリ国政府から次フェーズの要請が挙がっていることから、今回は実施された「実証事業」のフォローアップ方法についての具体的な検討は行わない。

1-1-1 調査の目的

住民による村の総合的な開発活動を通じて砂漠化防止を目指す「マリ開発調査」を事例に、住民による事業の受け止め方、ならびにその実施過程を調査し、住民が自ら活動に取り組む要因について検討・整理する。

1-1-2 調査の進め方

「マリ開発調査」の過程で実施された「ベースライン調査」「住民による評価」「経過評価」「効果評価」を踏まえて現地の関係者にヒアリングを行い、実証事業のパフォーマンスと相関関係のある要因を社会・経済的な側面、並びに農業技術的な側面から調査・検討した。「マリ開発調査」では「リーダー」「現地連絡員」「識字レベル」の3要因を、実証事業のパフォーマンスの良さと相関関係があると考えた。今回の調査では、これら3要因も念頭におきつつ、実証事業に携わった様々な人々へのヒアリングを通じて、実証事業のパフォーマンスと相関関係があると考えられる要因について検討した。

1-1-3 調査方法

下記の関係者へのヒアリングを行った（詳細は添付調査スケジュール参照）。

- 1) 中央の関係省庁（カウンターパート含む）、研究機関等
- 2) セグー県における各省庁支局（カウンターパート含む）、地方自治体

3) 実証調査実施村落調査

- ・長老グループ、若者グループ、女性グループ等、村落の伝統的な組織の関係者
- ・テロワール管理委員会委員長、メンバー
- ・現地連絡員（プロジェクトと住民をつなぐ facilitator）
- ・農業普及員
- ・実証調査で実施した事業のリーダー、メンバー
- ・一般住民

1-2 調査団構成

氏名	担当業務／分野	所属
鳥海 直子	総括	(財) 国際開発センター 主任研究員
横井 誠一	協力企画	国際協力事業団 (現 独立行政法人 国際協力機構) 農林水産開発調査部 計画課 課長
清水 直也	砂漠化防止／ 住民参加型開発	緑資源公団 (現 独立行政法人 緑資源機構) 海外事業部 調査設計課長 セグー地方南部砂漠化防止計画調査団 団長
壽賀 一仁	テロワール管理／ 住民	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター プロジェクト支援委員
増永 二之	農業技術／住民	島根大学生物資源科学部生態環境科学科 生態環境工学講座 講師

1-3 現地調査日程

次ページ参照。

日	曜日	日程
8	11 月	成田 12:05 → パリ 17:20 (AF275)
	12 火	パリ 16:35 → バマコ 20:15 (AF 796)
	13 水	1) 鉱山・エネルギー・水省 水利局 (表敬訪問) 2) 国家農村社会支援局 (DNAMR) 3) 団内ミーティング
	14 木	1) BEAGGES Mr. Abdorilaye Konate, Director General Mr. Mossa Kone, Representative BEAGGES Segou Mr. Rahamadou Mariko, Agro-economiste Expert Sig 2) IER Centre Regional de Recherche Agronomique (CRRA) de Sotuba, Programme de Recherche sur les Systemes de Production Rurale et Gestion de Ressources naturelles (SPGRN) Dr. Abou Berthe, Chef Programme, Systemes de production et Gestion des ressources nature ptes, Bamako Dr. Dembele Daouda, Chef Equise Systemes de production et gestion des ressources nature ptes, Sotuba Dr. Mamadou D. Doumbia, Head, Labotratoire Sol-Eau-Plante, Soil Scientist 3) 「マリ開発調査」 現地連絡員 2名(Sokoibougou 地区)へのヒアリング
	15 金	セグーへ移動 セグー県知事事務所 Mr. Hamidou Traore, Director du Cabinet, Mr. Siev Doumbra, Conseiller au Affiarg Administrative es Guridtgues, Mr. Boubacar Ba, Haur Communaire 鉱山・エネルギー・水省 水利局セグー支局 Mr. Oumar M. Toure, Director General
	16 土	Sakoibougou, Siradoba 村
	17 日	・国家農村社会支援局セグー支局 ・「マリ開発調査」 現地連絡員 2名へのヒアリング(Cinzana)
	18 月	Cinzana, N'Dinzanawere 村
	19 火	Soignebougou, Dafimbougou 村
	20 水	Soignebougou, Dafimbougou 村
	21 木	Cinzana 市役所 Mr. Jean Marie Keita, Mayor, Yaya Traore, Register Cinzana, Dlaba 村
	22 金	Cinzana, Dlaba 村
	23 土	Cinzana, Dlaba 村
	24 日	資料整理 調査団内ミーティング
	25 月	Cinzana, Zambougou 村 Cinzana 市役所 Yaya Traore, Register
	26 火	Cinzana, Zambougou 村[ワークショップ]
	27 水	Cinzana, Sinebougou 村 調査団内ミーティング
	28 木	バマコへの移動 15:00 Worldvision 調査団内ミーティング バマコ 22:30 → ダカール 23:59 [V7 761]
	29 金	9: 00 JICAセネガル事務所表敬 10:30 PRODEFI 専門家との協議(於: PRODEFI 事務所) 14:00 日本大使館 ダカール 22:55 →
	30 土	パリ 06:30(AF791) パリ 13:15 →
	31 日	成田 07:50 (AF 276)